



第17回女子ハンドボールアジア選手権 戦況連絡票



開催日	2018年 12月 1日 土曜日	試合コード	
開催地	(都道府県名) 熊本県	会場名	八代市総合体育館

結果	A	スコア		B
	オーストラリア	18	前半 8-19 後半 10-18 第一延長前半 — 第一延長後半 — 第二延長前半 — 第二延長後半 — 7m c —	日本
	A U S			J P N

戦況	見出し	スピード感あふれる試合を展開した日本が大勝。
	前半	日本のスローオフでゲーム開始。日本はNo.5のフェイント、No.18のサイドで得点し、オーストラリアはNo.8のミドル、No.6のポストで応戦する。日本はGKの堅守もあり、7分過ぎ、6-3とリードする。オーストラリアはディフェンスが機能しなくなったところで、チームタイムアウトを請求し、流れを変えようと試みる。ディフェンスで頑張り、速攻を出すsが相手GKのファインセーブもあり、得点につながらない。一方日本はNo.24のカットインで点差を広げ15分、9-5とする。さらに、No.21のサイドからの連続得点で13-5とさらに点差を広げた。No.21の勢いは止まらず、14-5とするが、その後退場により、数的不利な状況となる。この局面をサインプレーによる得点で切り抜けて、17-7とリードを保った。最後は確実に得点するために7人攻撃も見せ、19-8で日本が大量リードで前半を折り返した。
	後半	後半に入ると、お互いに決定力を欠き、硬直状態が続くが、日本はNo.13のトリッキーなサイド、No.24のカットインで得点を重ね、5分、22-9と点差を広げる。オーストラリアはNo.8のミドルで後半初得点を取るが、見方がディフェンスで二人連続退場になると、守れずにファールを連発し、7m Tを与えてしまう。オーストラリアも頑張ってNo.22のカットインなどで強引に攻めて、得点するが、その折り返しをすぐに速攻で返されてしまい、点差を詰めるには至らない。15分、29-14になったところで勝負ありの感はあったが、両チームとも熱のこもったゲームを展開した。日本は昨日と同様にめまぐるしくメンバーチェンジをし、スピーディなハンドボールを展開した。22分過ぎ日本はチームタイムアウトを取り、7人攻撃を仕掛け、さらに点差を広げていく。最後まで攻撃の手を緩めなかった日本が37-18と大差でオーストラリアを下した。

戦況報告書作成者

光永 和之

Both teams focused on the 2nd victory in this match. First goal was made by Australian Left back Potocki. After each other teams scored equality early stage of the first half (3:3), then Japan seized a opportunity from their defense, they took 11 points more than Australia at 30minites (19:8). Especially right wing Ikehara showed her quality because of getting 7 goals.

Japan was also taking advantage in the second half. They extended the lead more in 13minites (29:14). So Japan's head coach Urlik Kirkelly could try to many players in this 30minites.